

ラ フォレ セ ラ ヴィー ー森こそ命ー



La Forêt, C'est la Vie !



サハラを渡る車が動けなくなって、その残骸をさらす“車の墓場”

水を乞う

もう21年も前になるが、アフリカを北から西、東から南と1年にわたる長い旅をした。僕はアルジェリアでヒッチしてサハラを渡り、西アフリカのニジェールに入ったのだが、沙漠からやってくると、この地帯がなぜサヘル（岸边）と呼ばれるのかを実感する。そこはまさに沙漠という大海の岸边であり、そこではようやく人々が生きていける水や植物を得ることができるのだ。

サハラを渡るために、車に数十リットルの水を積み込んだ。沙漠で立ち往生した場合の非常用もあるので、使い切れない量である。そろそろ沙漠の旅が終わるところで、車に手を振る人の姿が現れる。彼らはあまった水があることを知っていて、それをもらうために待っているのだ。ドライバーが言った。「沙漠を越えた車はみんな彼らに水をあげるんだ。そうすれば、沙漠の中で立ち往生したときに、彼らが助けてくれるんだよ」

サハラを越えて最初にたどり着いた町アルリットは、まるで砂の中から生えてきたような土の家々が並び、街路は砂だった。乾いて熱く、ほこりっぽい風が吹き、人々はもの静かに暮らしていた。僕は毎年、カレンダーのデザインをするたびに、人々の姿や沙漠の風景を思い出す。そして「緑のサヘル」が文字通りサヘルを緑にしてくれることを願わずにはいられない。

旅行人 編集長 蔵前 仁一

2011年を振り返って

緑のサヘル 代表理事 岡本敏樹

今年は、3月11日の東日本大震災を始め、大型台風の相次ぐ襲来や豪雨による各地の災害など、言い表す言葉もないほどの衝撃が続きました。「何かをしなければ」と思いつつ、何もできないまま翻弄されていた自分に、歯がゆさを覚えたこともありました。

これまで以上に先が見え難くなってきている今日、「確かなことは何なのか」、「意識しなければならないことは何なのか」ということが、切実に問われているような気がします。次の一步の踏み出し方と置き場所に、真摯に向き合わなければならないと思います。

さて、2011年は「緑のサヘル」にとって、忍耐の一年となりました。3月末にブルキナファソで発生した一部軍人による騒乱は全土に広がり、各地で威嚇射撃を伴う示威行為が繰り返されました。また、高止まりを続けている食料価格に直面している市民はデモを行ない、生活苦を訴えました。外務省によるブルキナファソへの渡航自粛措置は4ヶ月の間続き、活動地域の住民のことを考えると、やきもきとせずにはいられない日々でした。



さらに、再びブルキナファソへ渡航できるようになった8月以降は、降雨状況が懸念材料となりました。現地の関係者から「今年の雨季は雨が少ない」と聞き、穀物が成長しないのではないかと不安を抱く日々が続きました。

しかし幸いにも、「緑のサヘル」がプロジェクトを行なっている地域では、雨量は確かに少なめでしたが、穀物や作物の栽培に壊滅的なダメージを与えるほどではなく、収穫も例年よりは減少するものの、食べるに困らない程度は得られることが分かりました。本当に、心の底から安堵しました。

めまいを覚えるような出来事が、日本を含めて世界的な規模で続発し、長い期間現地に行くことができなかったこともあって、追い詰められたような気持ちになっていましたが、ふっと心が軽くなった気がしました。そのとき、人と人は繋がっているのだと、改めて感じました。

「緑のサヘル」は、団体である以上、経営や計画といった面を考慮しなければ立ち行けません。しかし、国内の支援者の方々、現地で活動に参加してくれている住民の喜びや苦しさや繋がることで、前を向いて進む力強さを得ていると思います。本当に、ありがたいことだと感謝しております。

皆様からの物心両面に対する変わらぬご支援を、心より感謝致しますと共に、今後のより一層の繋がりを祈念し、お願い申し上げる次第です。

ブルキナファソから



JICA 草の根技術協力事業

現地では、収穫シーズンが始まっています。今雨季、ブルキナファソを含めたサヘル地域では、あまり雨が降りませんでした。いずれの国でも、収穫量の減少が確実視されており、食糧不足に対する懸念が高まっています。

プロジェクトを行なっているcongosi地域は、雨量は平年をやや下回る程度だったのですが、降雨の間隔が開いたため、例え穀物が芽を出したとしても、十分に成長できるかどうか懸念されていました。



期待以上の収穫に喜ぶ住民

しかし幸いにもロルガ村とタンギエマ村では、本事業によって設置された石堤とザイのおかげで、穀物が順調に成長していました。中でもタンギエマ村は、土地の回復を目指し、小石が散乱する荒廃地に石堤を設置しただけに作柄を心配していましたが、穀物は丈高く成長し、例年よりもずっと大きな穂が下がっていました。栽培地を案内してくれた住民の顔は笑顔で、ゆとりさえ感じられました。

ヤルカ村ミツバチの森プロジェクト



養蜂講習会での実技練習の様子

congosi地域の中心となっているcongosi市から、北に25キロのところにあるヤルカ村で、養蜂のプロジェクトを開始しました。

ヤルカ村の周辺では、以前と比べると森林が減少したものの、他村と比べれば植生が比較的に残っており、湖岸に近い場所では、自然発芽によるアカシアが林になっています。このような地域植生を利用し、現金収入に結びつくような取り組みとして、蜂箱を使用した養蜂を行なうことになりました。

ヤルカ村では、在来の手法によるカゴを使った蜂蜜採取が行なわれていました。しかし、ミツバチに刺されやすく危険であったため営む人は限られており、また蜂カゴの再利用も出来なかったため、採取量はそれほど多くありませんでした。そこで本事業では、防護服を配布して危険を軽減し、7つの養蜂箱を設置して採取量の増加を図ることにしました。

10月には、バム県環境局の技官を講師とした養蜂講習会を開催し、1日目はミツバチの習性や養蜂箱の管理方法を学び、2日目はタンギエマ村に設置している養蜂箱を用いて、蜂蜜採取の実技を行ないました。ミツバチが興奮していたためかなり群がりましたが、落ち着いて採取作業を進めることが出来ました。

タンザニアから



タンザニア北東部における植林プロジェクト形成調査

去る 10 月、大湖地域に位置するムワンザ州と沿岸部のタンガ州における自然環境や社会構成、人々の生活実態等を把握し、植林活動の可能性を探るためのプロジェクト形成調査を実施しました。本調査には、昨年度までの現地協力団体である REDESO（社会開発支援）の協力のもと、2 州 3 県 4 村の住民に対して聞き取りを行なったほか、農業局や環境局などの関係省庁や学校・診療所、女性組合、地元 NGO を訪問し、幅広く情報収集に努めました。

当該地域は、それぞれビクトリア湖やインド洋と隣接しており、水へのアクセスが比較的容易とされてきました。しかし、豊かな水源や森林資源を求めて、近年、他地域から住民が流入した結果、農地利用や薪炭材確保のために森林が乱伐され始め、土地の肥沃度の低下や水源の枯渇などの問題が各地で発生していることが分かりました。



村の女性たちへの聞き取り調査の様子。タンガ州ハンデニ県チョゴ地区にて。

政府が掲げる 5 大重点政策の中に「環境」分野は盛り込まれていません。タンザニアが誇る豊かな自然が破壊され手遅れになってしまう前に、残された自然環境を守りながら、豊かな緑を後世に残すための活動などを、私たち草の根レベルで始めていく必要があると感じました。

チャドから



食糧不足とコレラ蔓延、2 つの危機に見舞われています

今年の雨季は、サヘル全域で降雨の不足と不順が発生しました。このため、チャド共和国でも穀物の作付面積が減少し、例年と比べて北部で 20% 減、南部で 30% 減となりました。雨量が少なかったために種まきのタイミングが遅れてしまい、発芽した芽も十分に成長できませんでした。加えて、バッタや鳥による被害も発生し、穀物・作物栽培は大きな打撃を受けました。まだ収穫は始まっていませんが、北部地域での収穫量の激減は確実視されており、深刻な食糧危機のリスクが高まっています。

また 1 月以来、コレラの感染が広がっており、11 月までに 17,030 名の患者が発生、このうち既に 455 名が亡くなっています。9 月以降、感染者の数は減少していますが、薬の備蓄量が充分ではないため、予断を許さない状況が続いています。

国内活動



＜ 東京事務局での主な活動一覧 ＞

今期の活動は東京にとどまらず、神奈川、静岡、京都、兵庫に及びました。「よこはま国際フェスタ」への初参加、久々の関西講演等、「充実の秋」となりました。

8月	9日(火)	チャリティ☆ナイト「タンザニア・ザンジバルの呪術的世界」	共催
	25日(木)	「世界食料デー」月間 プレイベント・セミナー	講演 (岡本)
	27日(土)	JICA 国際協力人材育成説明会 NGO 活動紹介	参加 (鈴木)
9月	7日(水)	岩手県一関市立 花泉中学校 事務所訪問 (2年生 2名)	講義 (町)
	14日(火)	チャリティ☆ナイト「アフリカのドラムでチームビルディング」	共催
	17日(土)	国際協力草の根トーク「アフリカへの草の根支援」 (京都)	共催 (菅川)
	18日(日)	共同講演「国際協力機構(JICA)と NGO によるアフリカへの草の根支援～マリとブルキナファソの現場から」(神戸)	共催 (菅川)
	28日(水)	WE21 ショップとつか店・東戸塚店主催 第2回 WE 講座「ブルキナファソのことをもっとよく知ろう！」	講演 (町)
10月	1日(土)	グローバル・フェスタ2011 (東京・日比谷公園：～10/2)	参加
	11日(金)	チャリティ☆ナイト「ベナンでの飢餓のない地域づくり」	講演 (鈴木)
	20日(木)	岩手県盛岡市立 下橋中学校 修学旅行講演 (2年生 71名)	講演 (菅川)
	22日(土)	よこはま国際フェスタ2011 (横浜・象の鼻パーク：～10/23)	参加
	25日(火)	静岡県藤枝市立 広幡中学校 講演 (1～3年生 250名)	講演 (岡本)

京都と神戸で講演！

去る9月17日(土)、京都市の「龍谷大学アバンティ響都ホール」にて、「～国際協力草の根トーク～アフリカへの草の根支援」(主催：龍谷大学アフリカ研究センター)が開催されました。

当日は大林稔教授のコーディネートによる和気藹々とした雰囲気の中、タンザニアのストリート・チルドレン支援をめざす京都の学生グループ「ドゴドゴ・ファンド」の皆さん、日本に暮らしながら「アフリカ」を広める活動を行なっているセネガル出身のマンスール・ジャーニュさん、マリ共和国において長年にわたって活動を行っている「カラ＝西アフリカ農村自立協力会」代表の村上一枝さん、「緑のサヘル」事務局長の菅川が、アフリカ支援のあるべき姿について語り合いました。

また翌18日(日)には、神戸市の「国際協力機構(JICA)兵庫国際センター」において、「JICAと NGO によるアフリカへの草の根支援」(後援：国際協力機構)が催され、村上一枝さんと菅川が、それぞれの団体が活動している国や地域の状況、JICAと協力しながら実施しているプロジェクトの進捗状況について、報告を行ないました。

(写真：参加者の質問に答える村上さんと菅川)





2012年オリジナル・カレンダー大好評発売中！

今年も残すところ 1 か月をさりました。皆さん、もう来年のカレンダーはご購入済みですか？ 現在「緑のサヘル」では、10 作目となる「オリジナル・カレンダー」を大好評発売中です。世界の各国で人々の暮らしを取り続ける写真家・小松義夫氏と、「旅行人」編集長の蔵前仁一氏のご協力を得て、今回もアフリカの魅力が詰まった 1 冊に仕上がっています。

カレンダーのご注文方法は、同封の注文ハガキのほか、お電話や FAX、E メールでも受付けております。また、全国の大型書店や民族雑貨店などでもお取扱いしておりますので、お近くにお住まいの方は、ぜひお買い求めいただければと思います。

【緑のサヘル オリジナル・カレンダー取扱い店 一覧】

関東	紀伊國屋書店 新宿本店	関東	カフェギャラリー & 窯 ばおばぶ
	紀伊國屋書店 新宿南店	北海道・東北	紀伊國屋書店 札幌本店
	ロフト 有楽町店		おいものせなか
	旭屋書店 池袋店		紀伊國屋書店 仙台店
	ジュンク堂書店 池袋本店	中部	楽器屋 JUNJUN
	オリオン書房 立川ルミネ店		INAX ライブミュージアム ミュージアムショップ
	アフリカ民族楽器店 ボゴランマーケット	関西	アフリカ雑貨・民芸品 SALAMA 大津パルコ店
	輸入雑貨 梅田洋品店		紀伊國屋書店 梅田本店
	Tissus d'Afrique de l'ouest アフリカ屋		民族楽器店 ジェンベ
	ロフト 横浜店	その他	アフリカ専門輸入販売 アフリカンスクエア 楽天店

新インターンのご紹介

イベントへの出展やカレンダーの発注作業で大忙しになるこの時期、東京事務局に新しいインターンが仲間入りしました！ 忙しい学生生活の合間を縫って週に 2 日、事務局の実務作業をサポートして下さっています。誠実でスピーディーに作業をこなす花野さんに期待です。

「はじめまして。慶応大学 2 年の花野一平と申します。緑のサヘルで 9 月からインターンをさせてもらっています。もともと『国際協力』の世界に興味があり、初めの一步として NGO の国内での活動を体験したいと考えました。来年は休学して NGO の現地での活動に参加することも予定しています。2 月末までの短期間ではありますが、緑のサヘルの力になれるよう頑張るので、どうかよろしくお願い致します。

（花野 一平）」



ありがとうございました

＊敬称は略させて頂きました。

【 新規会員のみなさま 】

ダイビングフィッシュボード・チャーターサービス

【 継続会員のみなさま 】

菊地博子／田辺諄児／浅輪哲司・佳奈子／福川佐代／
(株)アースアンドヒューマンコーポレーション

【 ご寄付を頂きました 】

西山範之／太田宜子／田辺諄児／賀川麻衣／小林伸張／榎本みつ枝／木嶋清江
高野賢一／浅輪哲司・佳奈子／田中ちえ子／豊田和子／村上和代／碓井道子／小池昌子
武田てるよ／浅野理枝／加藤治郎／武知ハルミ／加藤正博／高嬉在／氏岡治代／坂本重夫
中尾進一・康子／越智美代子／杉本敏行／中村陽子／個別教育フォレスト 安多秀司
岩手県盛岡市立下橋中学校／(株)エイ・ジー・エス・コンサルティング GK
チャリティーラン 他 匿名をご希望の方 2 名

【 ハガキ・切手などを頂きました 】

倉澤昌子／太久保久美子／須江かおる／小田島みゆき
浅井健太郎／熊倉まさ子／岩手県一関市立花泉中学校
他 匿名をご希望の方 1 名

上記は 2011 年 8 月 1 日から 2011 年 10 月 31 日までにご支援頂いた方、また、それ以前にご支援頂き、お名前を掲載できなかった方のご芳名であり、2011 年 11 月 1 日以降にご支援下さいました方については、次号の掲載とさせて頂きました。

【 協力団体・助成団体 】

国際連合食糧農業機関(FAO)／(独)国際協力機構(JICA)／(社)日本経済団体連合会
(公社)国土緑化推進機構／(公財)イオン環境財団／(財)毎日新聞東京社会事業団
(財)国際緑化推進センター／(財)農村更生協会 ハヶ岳中央農業実践大学校
(株)サティスファクトリー／アクトシステム(株)／igreen(管理団体:seap)
(株)グリムス／(特活)環境アリーナ研究機構／(特活)国際協力 NGO センター
(特活)ハンガー・フリー・ワールド／アフリカ料理 神楽坂トライブス



画像を提供しました

株式会社 東京書籍

中学校教科書 平成 24 年度「新しい社会 地理」

株式会社 日テレ アックスオン

日本テレビ「買い物大好き！女神の市場（マルシェ）」8 月 19 日（金）放送

株式会社 ベネッセコーポレーション

平成 24 年度「進研ゼミ 中学講座＋i 講座 WEB 教材 中 3 アクティブ レッスン社会科」

日仏メディア交流協会

バラフォン奏者 Moussa Hema が語るサハラ以南の西アフリカ音楽（コンサート）

株式会社 学宝社

平成 24 年度中学 2 年生用「2 年の補強学習」

おしらせ

東日本大震災 支援活動まとめて募金

受付期限：2011 年 12 月末日まで

「緑のサヘル」も参加しているNGOのネットワーク、「(特活)国際協力NGOセンター(JANIC)」には、96 団体が正会員として加盟しています。このうち、国内外の緊急災害支援に高い専門性と実績を有する 35 団体が、現在被災地で救援活動を行なっています。

JANIC では、東日本大震災で被災された方々を支援するため、「東日本大震災 支援活動まとめて募金」を開設しています。こちらへのご寄付は、被災地で活動が続けている 35 団体に均等に振り分けられ、被災地のニーズに応じた迅速な人道支援に役立てられます。

「東日本大震災 支援活動まとめて募金」の詳細情報は以下のURLからご覧になれます。
<http://www.janic.org/bokin/matomete/matomete14.php>
 (※2011 年 11 月 25 日現在)

【 もくじ 】

- | | |
|----------------|---------|
| 1・表紙 | 5・国内活動 |
| 2・2011 年を振り返って | 6・事務局より |
| 3・ブルキナファソから | 7・ありがとう |
| 4・タンザニア・チャドから | 8・お知らせ |

< 編集部より >

●現地では、今年、雨が不足気味でしたが、思いのほか収穫量があるとのことでした。安心しました。良い年末年始を迎えられそうです。(岡本)
 ●講演のため、郷里岩手へ。8 か月以上が過ぎた今でも、「震災」は続いていました。(菅川)
 ●魂を込めて作られたアフリカの民芸品が、日本のイベントで喜ばれて大変嬉しかったです。(町)
 ●今年は久しぶりに日本での年越しです。(木藤)
 ●今年の冬は、節電対策としてコタツを購入することになりました。(鈴木)

ご贈答品・ご挨拶に
どうぞ

ハケ岳農場の特産品

ハケ岳中央農業実践大学校の特産品がさらに充実しました。これまでの手作りチーズとアイスクリームに加えて、チーズケーキ、カレー、ソーセージなど、ハケ岳の新鮮な材料と確かな技術から生まれた品々が勢揃いの 10 セットです。各地への送料を含めた価格は下記の表のとおりです。

大学校のご厚意により、お求めごとに定価の 20%が当会に寄付されます。

【お申し込み方法】

郵便振替用紙に、ご依頼人様とお届け先様のご住所、氏名、電話番号、ご希望セット名と数量をご明記の上、下記までお振込みください。
00140-9-50425「緑のサヘル」

お振り込みから到着まで 10 日程かかります。

		関東 信越 北陸 中部 南東北	関西 北東北	中国	四国	北海道 九州	沖縄
A	アイス10個	3,800	3,900	4,010	4,110	4,210	4,420
B	アイス20個	6,400	6,500	6,610	6,710	6,810	7,020
C	チーズ	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800
D	アイス / ケーキ2種	3,800	3,900	4,010	4,110	4,210	4,420
E	ムース	4,930	5,030	5,140	5,240	5,340	5,550
F	ケーキ	4,930	5,030	5,140	5,240	5,340	5,550
G	カレー / チーズ	5,000	5,100	5,210	5,310	5,410	5,620
H	ケーキ2種	3,230	3,330	3,440	3,540	3,640	3,850
I	カレー	3,580	3,680	3,790	3,890	3,990	4,200
J	チーズ / ソーセージ	5,730	5,830	5,940	6,040	6,140	6,350

内容の詳細をご希望の方は、事務局までご連絡ください。詳細チラシをお送りいたします。

La Forêt, C'est la Vie !

Vol. 48

編集 菅川拓也 岡本敏樹 木藤絢乃 町慶彦 鈴木香織 / 印刷 社会福祉法人東京コロニー

発行所 緑のサヘル ホームページ: <http://sahelgreen.org/> E-mail: agsj_tokyo@sahelgreen.org

〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町 16 番地 田澤ビル 3F TEL: 03-3252-1040 / FAX: 03-3252-1041